

## 日本の海岸線を歩く会 歩行報告書

報告者 稲葉勝利

## 1. 概要

歩行名称にはブロック名（会則に記載）と概略歩行区間を記載する

歩行名称	北陸6
歩行区間詳細	スタート地点:浦本駅（青海駅と市振駅間は前回歩行をカットしたため今回歩行。その後前回のゴール地点浦本駅まで電車で移動し、浦本駅より再開）
	ゴール地点:柏崎駅
実施期間	2017年4月24日～28日
全歩行距離	92.5km

## 2. メンバー表

No.	役割・分担	氏名	年齢	歩行日数	備考
1	リーダー	稲葉勝利	72歳	5日	12期
2		住山茂	71歳	5日	12期
3					
4					
5					

## 3. 歩行の概要

	月日	出発地～到着地	歩行距離	歩行参加者	備考
1	4/24(月)	青海駅→市振駅	15.3 km	稲葉、住山	
2	4/25(火)	浦本駅→名立	20.1km	同上	
3	4/26(水)	名立→犀潟	22.3km	同上	
4	4/27(木)	犀潟→米山	18.7km	同上	
5	4/28(金)	米山→枕崎駅	16.1km	同上	
6					
7					

## 4. 費用

## (1)参加費

参加者延べ日数 2人x5日=10人日

参加費合計 1000円

## (2)費用概算

交通費 14,510円（逗子→青海、市振→浦本、柏崎→長岡→逗子）

帰路は大人の休日クラブの対象外の期間のため、住山氏のJR東日本株主優待券を使用し4割引

宿泊費	23,400 円	(2 食付き 3 泊、素泊 1 泊)
飲食費	14,525 円	(昼食、飲み物等)
合計	52,435 円	

## 5. 歩行の詳細

4 月 24 日 (月) 青海駅～市振駅 天気 晴

昨年はこのコースを民宿の女将の忠告もあり断念したため、今回このコースをリベンジした後、本来のコースに戻る。安全性を考慮し、対向車に対し海側となるよう昨年とは逆コースの青梅→市振とした。また反射タスキ、反射板 LEDライト、ヘッドランプ等を用意したが、洞門内は反射タスキを、トンネル内はヘッドランプを追加するだけで十分だった。

このコースは第一世代(波打ち際の旧北陸道)、第二世代(明治 16 年完成した旧道)、第三世代(昭和 41 年完成の 8 号線)、第四世代(昭和 41 年完成の高速道路)があるが、現在歩行できるのは第三世代の道路である。

第二世代の道路は明治 11 年明治天皇巡行の折、第一世代の道を通らず、山越えの悪路を通過したのを契機に全て人力で工事が行われたという。今回の歩行した北陸道の至る所で、明治天皇巡行の碑が見られた。

10:50 青海駅を出発。国土地理院の地図では青海駅と道の駅親不知ピア・パーク間に洞門 3 カ所、トンネル 3 カ所となっているが、実際には最後の駒返しトンネル以外の五カ所は洞門であった。洞門内は歩行者用通路がないが、対向車が避けてくれるし時には停車して安全を確保してくれた。駒返しトンネル内には幅 1m 位の一段高い歩行者用通路が確保され、予想以上の安心感を持って通過。駒返しトンネルを出た所で工事中のため 8 号線の歩行禁止となっており、旧道を歩行する。旧道の水上勉文学碑の前で、同年輩の二人連れの男性に出会う。彼らも親不知の駅から市振に向けて歩行するという。



子不知の洞門内を歩行



第一世代の道はトホポットに覆われている



三番目の洞門(勝山トンネル)の先には第二世代の道路が残っている。

道の駅 12:25 着。昼食後 13:00 出発。6 番目の洞門を抜けると親不知記念広場にて。「天陰断崖黎明」の木柱と相馬御風の碑が建立されている。次の二つの洞門を抜けると親不知観光ホテル(14:05)に到着。ここは雪倉岳・朝日岳から続く梅海新道の終着点である。一方ここから始まる天険トンネルは現在唯一歩行可能な第二世代の道路で迂回できる。ホテルの先にはウイリアム・ウェストンの像が建つ休憩所があり、歩いてきた子不知の展望が一望できる。「如砥如矢」の字が彫られた岩壁や親不知の断崖を見ながらユキノシタやスマイルの咲く幅広い道をのんびり歩む。14:33 再び 8 号線に合流し四つの洞門を抜けると洞門部分は完了し、緊張から解放される。15:13 市振の宿場に入るが、予定より 1 時間近く早く到着してしまった。さほど危険は感じなかったが、やはり緊張して、早く通過したいと無意識のうちに早足になったのだろう。駅までは 10 分位で行けるが、予定の列車は 16:43 発。前の列車は 15:20 で間に合わず、大幅の待ち時間となる。市振は昔の宿場町であり、海道の松(現在はなく、説明版のみ)、伝芭蕉の宿桔梗屋跡、明治天皇市振御小休止跡、天然記念物関所榎、関所跡、等多くの遺跡が残っている。それらの遺跡を巡って散策するも時間は潰せず、店もなかったため無事通過を祝して港で手持ちの焼酎とつまみで祝宴を挙げ時間を潰す。糸魚川駅着 17:02 宿泊は駅から約 5 分の民宿古畑。宿の 2 階の南には頸城山塊から梅池の方が広がっている。焼山が噴煙を挙げながら一番奥に盟主のようにどっしりと鎮座している。四年の白山での夏合宿後に一人で中土駅から登り始め、登山禁止前の焼山から妙高まで縦走したことが思い出される。



親不知記念公園より天険トンネル方向



第二世代の道路を行く



洞門を完了した地点より振り返る

4月25日(火) 浦本～名立 天気 晴

糸魚川駅発 8:21 の電車で浦本駅へ。8:35 久比岐自転車歩行者道を行く。この地域はフォッサマグナの海底にたまった堆積岩でできており、隆起運動によって、まだ、よく固まっていない堆積岩が海底から持ち上げられた結果、地滑りを起こし、旧国鉄北陸本線は開業以来、約 70 回の地滑りに襲われ、線路が壊され、また列車の転覆事故が起きたという。そのため 1969 年新たにトンネルを多用した線路を建設し、旧線路跡は自転車と歩行者の専用道路とした。上越市中虫生岩戸から糸魚川市中宿までの全長 32 km の距離で本日はほとんどこの道を行く。昨年の歩行より 1 か月早い時期のため頸城山系の山はまだ雪山で見応えがある。線路跡の両側には蕨、ツツギ、アサギ、カンゾウ 等食用野草が群生している。鬼伏区は「ツツギの里」として世話をしているようだ。途中我が国のヒメノミの北限地でもあり、重要文化財でもある白山神社を見学して、すぐ下の弁天岩で休憩。10:40。赤い欄干の曙橋の向こうの岩は弁財天が祀られていることからこの岩を弁天岩という。橋の上を多くの鯉のぼりが泳いでいる下で、幼稚園児が海辺で遊んでいる以外ひと気はなく静かである。道の駅マリン能生はここから 5 分程。日本海側最大級のペンギン館の直売所と言われるだけあって多数の店が軒を連ねている。白山神社から道の駅マリン能生までは糸魚川マスコット世界の 21 番目の弁天岩ジオサイトとして、認定されている。昼食には早いので、食べるのは我慢し先に進む。百川付近は『日本風景街道』と住民の方が枝垂れ桜などを植樹しており、自然の桜の花と一体になり、美しく魅力ある風景を作っている。丁度色々な樹木の開花時期なので、花を満喫しながら歩く。11:55 越王ラーメン店にて昼食。この付近では 2 軒しか食堂がないが、他の 1 軒は定休日。



久比岐自転車歩行者道



米山・福浦八景の弁天岩



百川付近を行く

12:30 ラン店 発。畑仕事に精を出す 73 歳のお年寄りがおり、話を聞く。トンネルが狭く、高さも低いので本当に列車の線路跡かと聞くと、この道路は特急も走っていたと自慢気に話をされていた。13:35 筒石先端。筒石では専用道路を外れ、3 階建てで間口が狭く奥行きが長い建物で狭い土地を有効活用している漁村集落の路地を行く。昔は隣と壁を共有していたという。現在でも隣との境は人が通過できる幅もない程に密集している。

14:40 名立到着。予約した民宿の看板が見当たらず、聞くと数年前に廃業しているという。先週おばあさんが亡くなったので宿泊予約を受けるはずがないとのこと。Tel するも応答なし。家に行っても留守。①泊 2 食 11,800 円、素泊り 6,100 円の名立ホテルに宿泊するか、②直江津まで電車で行って宿泊する の選択肢の内、当然安い②を基本とし、仕事から帰宅するであろう 17:00 過ぎまで連絡を待とうと決める。その後時間つぶしに道の駅内の魚屋を見ていると店の人から、町はずれにある名立食堂でも宿泊させてくれるのではないかとこの情報を得る。結局 16:50 まで待つが連絡がなかったためメ

モを残し、名立食堂に行く。5分位ということだったが、15分以上かかり、途中あきらめそうになったが我慢し探す。結局15分以上歩き発見。後で地図を見ると2kmあった。聞くと宿泊可との事で一安心。17:15 宿着 19:00 過ぎ予約していた宿の方から謝りの連絡があった。細かくは聞かなかったが不思議な1件であった。

名立村の売りは道の駅で自分が好きな魚を選んで料理してくれるとの事。この宿は素泊まりで料理は食堂のメニューから選ぶ。ある意味では同じである。ただしメニューを見ると、この地域の特徴ある料理はあまりなく、極標準的な料理。この宿の料金は3,900円。致し方ないか。明日は雨の予報。午後雨脚が強くなりそうなので、早朝出発したかったが、朝食は食堂の始まる8:00~であった。夕日が日本海に沈む絶好のケーションであったが、水平線上に雲があり、良い写真が撮れなかった。昨日は電車の待ち時間で、本日は宿確保のため目的地到着後の待ち時間が長い。



畑仕事のお年寄りに話を聞く



3階立の筒石の町並みを行く



左手は8号線、右上には鉄道

4月26日(水) 名立~犀潟 天気 小雨

名立食堂8:50発 朝起きると既に霧雨が降っている、雨具を付け今日も久比岐自転車歩行者専用道路に行く。

9:20 不動滝通過、トンネルの長さと所要時間が時に463m 2分、また161m 2分とバラバラ。歩行時間? 自転車での時間? トンネルは旧北陸本線当時のものをそのまま使用しているので、レガ造り。10:15コンビニにて休憩タイム。有間川からは昔と線路は異なるが、えちごトキめき鉄道も海岸線を走る。直江津海水浴場入り口手前で久比岐自転車歩行者専用道路は終わり、砂浜に沿った道を進む。途中、トンネル内をランニングしている若者に出会う。ゴールデンウィーク前の平日であった為か、昨日から点検用の車に会っただけで自転車にも一台も会っていない。一昨日の親不知とは逆に雨の時のランニングには絶好の場所である。夏には賑わうであろう海水浴場もこの時期では人目もなく閑散としている。



名立食堂を出発



旧鉄道のトンネルを歩く



閑散とした直江津海水浴場

12:00、昨日の例もあるので、本日の宿舎に連絡し、チェックインは16:30~になっているが雨も降っており、時間前に建物内に入ることが可能かを聞く。普段は無人で鍵の管理者が来るのが16:30なので希望は叶えられないとの回答。このままでは1時間近く余裕がある。途中時間を過ごすところも考えられず、直江津駅付近ならあるだろうと駅を目指す。「親鸞聖人上陸の地」の碑が建つ所から海岸線を離れ、国分寺経由直江津駅を目指す。親鸞は専修念仏禁止により、越後の国に配流された際、この地に上陸し、流人として5年間、その後、妻の恵信尼とともに2年間この五智周辺で過ごしたという。海岸の上の公園には多くの記念碑が建立されていた。又この越後国分寺は五智如来で有名であるが、外部からは上半身が見られないのは残念であった。12:50~13:20 やっと見つけた食堂で昼食。直江津駅周辺には喫茶店も見当たらず、やむなく駅の待合室で時間を調整する。駅から間もなく8号線に出るが、道路は2車線となって車が多い。海岸線から離

れ工場が立ち並ぶ面白みのない道をひたすら宿泊地目指して雨の中を歩く。途中コンビニでアルコールを調達し、16:35 宿に到着。「あいかわ働く人の宿」は「料金4流、サービス3流、料理は2流、笑顔は1流」を謳い文句にしているだけあり、今回は「ちょっと贅沢プラン」(6,200円)を選択したため、夕食、朝食とも料理はホリューム満点。本店は料理屋なので、味も申し分なし。

生ビール300円、1合入り地酒350円と格安のため、購入したアルコールは飲まず。

部屋はシングルベッド付の部屋に布団を追加したもので狭いが、寝るだけなので十分である。また「働く人の宿」と謳っている通り、出張工事や長期出張の方が多く宿泊しており、「職場の教養」なる朝礼用冊子が配布されている。



親鸞聖人上陸の地



越後五智国分寺の三十の塔



歩行にピッタリ。ホリューム満点の夕食

4月27日(木) 犀潟～米山 天気 曇後晴

7:45 宿発。8:20 129号線から離れ、久しぶりに海岸線に出る。港の岸壁で多くの人が釣りをしている。長野Nの車が多く、なぜ今の時間長野からここにきて釣りをしているのだろう。この後はほぼ北国街道の古道(現129号)を進む。この付近では食堂や食料品の店は目につかないが酒屋だけがよく目につく。9:35 米山道と奥州道分岐の道標。行き手に米山が大きく立ちはだかる。雪を纏っているので余計際立つ。三階節に出てくる米山は標高992.5mに過ぎないが、きれいな四角錐の頂上を持ち三百名山にもなっている。米山の名の由来は白山を開山した泰澄大師の弟子「沙耶」が、強欲な船主の北前船から積荷の米俵をこの山の山頂に飛ばしたことからこの名が付いたと民宿の女将が言っていたが、山頂にある日本三大薬師の一つである米山薬師は五穀豊穰を祈願するという。9:45 鶴の浜温泉の端の海辺にある人魚伝説公園に立ち寄る。佐渡の娘と雁子浜の若者の悲恋が残っている人魚像が設置されている。小川未明の「赤いろうそくと人魚」のモデルという。

ライオン(株)創始者の小林富次郎の「堅忍遺慶の碑」がある光徳寺(10:45)を過ぎ、中野茶屋にて昼食11:35



米山道と奥州道分岐



酒屋が多い街道



海岸の上に建つ人魚伝説公園

13:10 竹鼻二十三夜塔。感が働き二十三夜塔の裏道を少し行ったところで昨年に続き、事前調査になかった庚申塔を発見して感激。

13:50 道端でベニワリガニを販売している。これまで食べていなかったもので、600円のを1杯購入したらかわいそうだと思ったか、1杯おまけをしてくれた。14:20 府中屋商店到着。4日目にして初めてスムーズに宿に着いた。早速宿の方にかを渡し、ビールと昨日残した日本酒で祝宴。甲羅酒が喉に染み渡る。



この石仏の裏で庚申塔発見      加直売所長福丸の女将さん      ベニズリ伽子を堪能

その後聖ヶ鼻の展望広場に道の様子と展望を求めていく。ここから先の旧道は 2004 年に発生した中越地震で道が寸断されて通行できないとされている。実際に確認すると展望台の右手の小山からおよそ幅 10m にわたって崩落しており、翌日はトシの 8 号線で迂回していくことにする。展望広場というだけあってここからの展望は絶景である。柏崎方向の奥には佐渡島が、直江津方面も今まで歩いてきた海岸線が一望でき、米山も直ぐ背後に迫る。カガ海峡の第一発見者である松田伝十郎の「カガは離島なり、大日本国国境と見極めたり」の碑が建つ。

未だ時間が早いため、入浴後、夕日の撮影に散歩する。この民宿は小さいながらこの小村で食料品を扱う唯一の商店。アルコール類も当然原価。歩いてきた道路の名を付けた日本酒「久比岐」、越の誉、ビールとともに掛け軸等が掲げられた二間続きの大広間で魚介類や山菜の豪華な料理を楽しむ。



展望台から北方を見る  
遠く佐渡島を望む

展望台から南方を見る  
米山の町の海岸寄りを鉄道が走る

日本海に沈む夕日

4月28日(金) 米山～柏崎 天気 晴

8:20 民宿発。米山第一トシを抜け出た所から 8 号線と別れ旧道を行く、上輪浜海水浴場経由の道は一度 60m ほど坂を下ってまた大きく迂回しながら登っていくが、あえてこの道を選んだのは石仏が多く散在するからである。

登って 8 号線と合流する手前に鯛料理「六宜閣」がある。9:35 店の老女将に聞くとここは昔明治天皇も宿泊した名門というが、中越地震の影響で、現在は老女将一人で住んでいて、営業はしていないとの話。旧道以外に昨晚の宿泊地から笠島まで続く米山海岸歩道もトシ等の崩壊で通行止めになっているし、中越地震以来 13 年も経つが町中を外れた場所の復興は何時になるのだろうか。10:35 米山 S A の手前で 8 号線に合流。休んでいると反対側から大きな荷物を背負った人が来た。当初同様な一人旅をしている人かと思ったが、近づくと山ウドを背負った村の老婆であった。六宜閣の女将もこれから山菜取りに出かけると言っていたが、皆さん 80 歳を超えてなお元気に畑仕事や山菜取りをしている。



米山大橋と庚申塔



牛ヶ首層内褶曲



多量の山ウドを背負う老婆

11:20~12:25 日本フィッシャーマンズケープ・レストランにて昼食。この道の駅は8号線から離れたところにあるが、商店等は道路沿いにある。日本海の魚が所狭しとばかり、いろいろな種類の魚が多量に並べられている。ただし日本海に限らず、各地の魚も混ざっている。西鯨波海水浴場の付近からまた8号線から別れ、信越本線に沿っている旧道に行く。13:25 高台の番神御野立公園着。明治天皇御巡幸記念碑をはじめ多くの方の顕彰碑や詩碑、句碑が建っている。ここも展望が良いところで、海岸線の眺め以外に守門から越後三山の山並みと思える雪山が遠望できた。たまたまここに来ていた23歳の女性に聞くが、山については詳しくなく知らないという。今回の歩行で初めて若い女性と話したので、記念写真を撮り、歩行証明書を頂いた。この旧道も多数の石仏が散見される。14:05 番神堂入り口。番神堂に立ち寄る。番神堂は佐渡から放免の折り日蓮上人が三十番神を勧請したと伝えられている。堂周りの彫刻は桃山狩野派の最後の逸品と言われているようだが確かに見応えがある。ここまでくると佐渡の金北山、経塚山が真近かに見える。さらには越後三山に続いて谷川連峰も連なっている。ここまで来れば柏崎駅もうすぐだ。海岸線からは離れるが旧街道を柏崎駅に向かう。途中街道筋にある弘法大師御茶之池や石仏が集まる虚空蔵寺、香積寺に寄り道をしながらのんびり歩む。熊出没の警戒警報が町中に響き渡る。15:35 柏崎駅着 あまりにもゆっくりし過ぎたため電車の発車まで30分程しかない。駅前の居酒屋に入り、ホテルイカをさかなに生ビールで打ち上げを行った。時間を持って余した今回の歩行は最後に慌てる結果で完了した。



日本フィッシャーマンズケープの建屋内に多くの魚屋が並ぶ



若い女性と記念撮影



番神御野立公園から柏崎方面を望む



番神堂は岬の高台に建つ



番神堂



遠く上越の山々を望む